

The Relation between Serum Endostatin Level and Carotid Atherosclerosis in Healthy Residents of Japan:Results from the Kyushu and Okinawa Population Study(KOPS)

加藤, 禎史

<https://doi.org/10.15017/1931779>

出版情報 : Kyushu University, 2017, 博士 (医学) , 課程博士
バージョン :
権利関係 : CC BY-NC-SA

氏 名：加 藤 禎 史

論 文 名：The Relation between Serum Endostatin Level and Carotid Atherosclerosis in Healthy Residents of Japan: Results from the Kyushu and Okinawa Population Study (KOPS)

(一般住民健常者における血清エンドスタチン値と頸動脈硬化の関連
Kyushu Okinawa Population Study (KOPS) より)

区 分：甲

論 文 内 容 の 要 旨

目的：一般住民健常者において動脈硬化の古典的なリスク因子で調整した血清エンドスタチン Endostatin (以下 ES とする) 値と潜在的な動脈硬化との関連を検討した。

方法：2010 年と 2011 年に九州の 2 地域の住民健診を受診した 1,057 例のうち、文書での同意が得られた 648 例の健常者が対象である。対象者の血清 ES 値を測定し、頸動脈エコー検査による総頸動脈内膜中膜複合体厚 (intima-media thickness; 以下 IMT とする) の測定を行った。

結果：対象 648 例の血清 ES の中央値 (63.7 ng/mL) で層別化し解析した。ES 高値群の頸動脈 IMT 値は低値群と比較して有意に高値であった (0.71 ± 0.14 vs. 0.65 ± 0.09 mm, $P < 0.001$)。共分散分析を用いて年齢、性別、BMI (Body mass index)、飲酒、喫煙、収縮期血圧、拡張期血圧、HbA1c (hemoglobin A1c)、LDL (low density lipoprotein) コレステロール、eGFR (estimated glomerular filtration rate)、高感度 CRP (C-reactive protein) で調整後、ES 高値群の調整後平均頸動脈 IMT 値は低値群と比較して有意に高値であった (0.67 vs. 0.64 mm, $P = 0.029$)。

結語：一般住民健常者において、血清 ES 高値は潜在的な動脈硬化を反映して高値となっていることが示唆された。